



ジュゴン Vol.132

ちゃんぷるニュース

SDCC 2024. 1. 30
Save the Dugong Campaign Center

CONTENTS

- 2/3 情勢・展望なき軟弱地盤工事
- 国際・SDCC ならではの取り組みへ
- 4/5 政府交渉報告
- 各地の活動報告
- 6/7 交流広場
- 喜瀬武原を訪ねる沖縄旅
- わんさか通信★ジュゴンのわ



昨年は大変お世話になりました。明けて今年庚申の辰年。良い龍も悪い龍も入り乱れる年。元日は、辺野古の「初興し」が復活し、浜に3個の石で「火又神」を設え、御願しました。3個の石は、天の神、地の神、龍宮神です。SDCC会員と賛助会員の皆さんが、ジュゴンを保護するために頑張っていることを報告し、加護を祈りました。今年こそ辺野古新基地建設を断念させねばなりません。暮れには南城市の佐敷上グスクを訪ねました。「三つ巴紋」で琉球三山を統一した尚巴志一族の屋敷跡です。そこから中城湾を望む海辺に下り、拾ってきた3個の石を、今年の「火又神」にしました。

2024年 迎春

2020年には、首里城火災とジュゴンBの死の原因を糺すよう祈りました。コロナ禍で社会が混乱する事態となりましたが、それでも神のシナリオは、戦争文明の崩壊を予見させて見えました。昨年は安倍政権と旧統一協会との関係が暴かれ、安倍派の政治資金パーティーの裏金問題が東京地検に摘発され、逮捕者も出ました。

いよいよ米軍支配下の自由民主党総崩れか？と思いきや、そんな中、沖縄県民の反対を押し切り、国交大臣の代執行で大浦湾の埋め立てを開始したのでした。地方自治法を無視し、何故そこまでするのか？。理由は安倍晋三の先祖が関わる明治国家にあったということ。それは、皇統に都合の悪い龍宮神信仰が本土復帰させた沖縄で復活していたことであり、辺野古の海にジュゴンが生きていたからです。

しかし、龍宮神信仰とジュゴンを守るのが沖縄側の公益であり、平和を守らない本土に妥協する訳にはいきません。しかも、沖縄にはジュゴンを殺すと大津波が来るとの伝説があるのでした。つまり、ジュゴンが「神」である龍宮神に救いを求めた場合に、大災害が起こるということです。偶然にも元日に起きたのが、石川県能登半島大地震でした。被災された方々にお見舞い申し上げ、亡くなった人たちのご冥福を祈るばかりですが、辺野古新基地建設を断念し、国民を救う政治をしない限り、群発地震は続くことになるかも知れません。

海勢頭豊(うみせど ゆたか:SDCC 共同代表)

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



12月10日、沖縄県うるま市で開かれた「喜瀬武原コンサート」。(4、7面)



12月14日、辺野古・大浦湾で行われた海上大行動(5面)。

情勢（事務局）

展望なき軟弱地盤工事 大浦湾をジュゴン保護区に

地方自治を否定する岸田内閣

昨年12月28日、岸田内閣は沖縄防衛局の設計変更申請を承認しました。沖縄県民の多数が反対している新基地建設計画を、司法の総力を挙げて強行するなど民主主義国家にあるまじき行為です。2000年に施行された地方分権一括法は、憲法にもとづいて国と地方の関係を「上下から対等協力」へと地方自治を保障するものでした。今、岸田内閣は地方分権一括法を否定するばかりか、昨年12月地方制度調査会を悪用して、コロナ禍の自治体対応を口実に、「閣議決定で個別法に規定がなくとも自治体に指示できる『指示権』を認める」とする答申を出させました。沖縄ミサイル基地化などの戦争国家づくりの一環です。

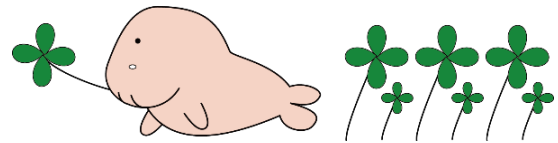
「辺野古より普天間」～在沖米軍幹部の本音

木原防衛相は沖縄県と事前協議せずに「普天間飛行場の全面返還に向けた一つの節目」と1月10日に着工しました。しかし、軟弱地盤改良の展望はありません。昨年11月7日、在沖米4軍合同で開いた報道関係者へのワークショップで、「（在沖米軍幹部が）軟弱地盤 軍事に影響の可能性の懸念示す」「普天間維持の考えも」（沖縄タイムス）との見解を明らかにしています。米国は「1966年米海軍飛行場の基本計画」で大浦湾の軟弱地盤について記載し、莫大な工事費と時間がかかるとの理由から1967年3月に検討を中止して

いるからです。また、米軍は「長い滑走路がある民間飛行場の使用を」など8項目を返還条件にしているからです。17年6月稲田朋美防衛相（当時）が国会答弁で明らかにしています。財界の代弁者、日経新聞は12月28日社説で「対話せず代執行に頼った国は反省を」、「米軍関係者に移設の現実味を薄れさせている」「普天間返還は不可欠」と岸田内閣の無策ぶりに呆れています。

今こそチャンス

昨年12月環境省交渉で「大浦湾は生物多様性豊かな重要な海域である」との確認をふまえて、生物多様性条約 COP15で決定された「陸、海の30%を保護地域（30by30）」の対象にすることを求めました。日本政府は昨年3月に生物多様性国家戦略を策定し、23年度から対象の候補を抽出検討する準備に入っています。私たちも積極的に関わり、「大浦湾にジュゴン保護区を」のキャンペーンを広げ、普天間即時返還・新基地建設阻止を実現したいと思っています。今こそチャンス、沖縄を、日本を戦場にはさせません。



気候変動条約 COP28～化石燃料からの脱却に合意

昨年12月13日 COP28 IN ドバイでは、参加した200か国が白熱した議論で会議を1日延長し、次の2点を合意しました。
①2050年までに化石燃料から脱却する。②2030年までに再生エネルギーを3倍にし、石炭の使用を減らす。「化石燃料脱却の必要性について、明確な文章で世界が団結するのは初めて」（ルウェー外相）と合意の成果が語られています。「後発開発途上国のための『温暖化による損失と損害基金』」は、さらなる資金づくり（拠出表明は8億ドル）と、脆弱な途上港への支援ルールづくりを特別委員会で結論を出すことになりました。国連気候変動条約事務局長は「合意は化石燃料の終わりの始まりになる」と合意の成果を強調、各国の政策と取り組みを要請しました。

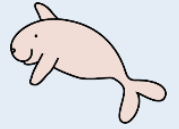
課題は、米国が提案し日本など21か国が賛同した「2050年までに世界の原発許容量を3倍に」の動きです。日本政府による

原発の海外輸出を許してはなりません。戦争による環境破壊があります。COP28で環境団体は「人権なくして気候正義なし」とイスラエルの大量虐殺を批判し、化石賞（注）を与えました。日本政府はまたも国内向けの二枚舌を使っています。合意文書で重要な「化石燃料からの脱却」について、「化石燃料からの移行に言及する文書が合意されたことは重要」（伊藤環境大臣）と「脱却」を「移行」に変えています（NHK12月14日）。これが日本政府の気候温暖化対策の姿勢です。COP28での議論と合意文書の内容を広げましょう。（事務局 蛭川義章）

（注）「化石賞」：国際環境NGOが気候変動対策に対して足を引き張った国に与える賞のこと



2024年を迎えて 国際担当からの報告



明けましておめでとうございます。今年もよろしく申し上げます。

SDCC の国際担当として 2024 年を新たな決意でスタートした。辺野古新基地建設とやんばるの森における米軍の訓練を中止させ、沖縄の自然を守るという目標の達成にはまだまだ遠い。事実、国の「代執行」による設計変更承認を受け、1月109日には大浦湾側で軟弱地盤改良の工事が着手された。やんばるの森ではオスプレー機による米軍の訓練は停止しているが、他の訓練は続いている。しかし目標達成に向け重要な進展があったことも確かだ。2024年、その進展を踏まえ、SDCC ならではの取り組みを展開していきたい。

辺野古・大浦湾を守れ：辺野古新基地建設を止めよう

昨年11月、在沖縄米軍幹部がメディアの質問に答える形で、軟弱地盤上にある飛行場の運用や工事の遅れ等について米軍としての懸念を初めて公に表明した。基地を使う立場にある米軍による懸念表明は重大な進展だった。この懸念表明の背景には、沖縄県やSDCCを含む国内外の市民団体が米政府に情報を提供し、また情報の開示を求める取り組みがあった。

現在この無謀な建設計画が計画通りにいくと主張しているのは日本政府だけだ。米国連邦議会や米国の有力シンクタンクもこの計画の実現性に疑問を示してきた。代執行裁判で政府を支持する判決を下した福岡高裁那覇支部さえ、さらなる設計変更が必要になる可能性について言及している。建設計画が困難視されていることを広く伝えていくことが鍵となる。

一方残念なことに、米軍、シンクタンク、日本の裁判所から環境への影響についての言及はない。連邦議会は環境への影響について触れてはきたものの、実質的な議論には全く繋がっていない。辺野古新基地建設を止めるには、生物多様性豊かな辺野古・大浦湾の環境が破壊されていること、世界の宝が壊されていることを強調していくことが重要だ。基地建設を止めることにより何が守られるのかを明確に訴えていくことが国際世論の喚起につながるはずだ。



今年もSDCCは軟弱地盤と環境破壊の問題を日米政府や国際社会に粘り強く訴えていく。その一歩として、これまで新基地建設反対の署名等に賛同してくれた国内外の団体や個人に対して、基地建設の現状と米軍が軟弱地盤について懸念を表明したことを報告していく。

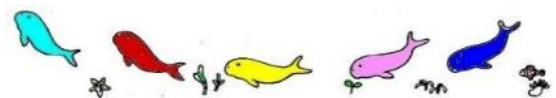
やんばるの森を守れ：北部訓練場の問題を解決しよう

昨年7月、日米両政府は、世界自然遺産やんばるの森を守る協力体制を強化する新たな合意を発表した。合意内容の一つは地域コミュニティと在沖米軍の協働の推進で、これも重要な進展だったといえる。この合意に基づいて、環境省は、沖縄県、やんばる三村、地域のNPOやNGO等と在沖米軍とのミーティングの開催を予定している。ちなみにSDCCは昨年11月の環境省交渉で米軍と市民のミーティングの開催を要請し、環境省からは前向きな姿勢が示されていた。

県内の多様なステークホルダーが米軍と直接対話を持つのは初めての試みとなる。今後定期的に開催が予定されるこのミーティングで、地域コミュニティが米軍とどれだけ率直な議論ができるかが鍵となる。

しかし、環境省先導のもとやんばるの森の世界遺産登録や登録後の保全に関わってきた沖縄県、関係地自体、NPOが、米軍の訓練や遺産地内に組み込まれた北部訓練場跡地に残る米軍廃棄物に言及してきたとは言いえない。環境省自体、米軍廃棄物への注意を喚起する看板の設置さえも未だに躊躇しているのが実情だ。それゆえ、米軍の訓練や廃棄物の問題を訴えてきた沖縄の市民社会のメンバーが米軍とのミーティングに参加し、臆することなく、これまで通り問題を指摘していくことが重要となる。

今年もSDCCは、省庁交渉を定期的に行なうIUCNのメンバーであることを活かしながら、やんばるの森の米軍の問題に取り組み地域コミュニティを支えていきたい。(国際担当 吉川秀樹)



報告

防衛省、環境省と交渉しました



12月1日に伊波洋一参議院議員の仲介にて防衛省、環境省と交渉しました。

11月7日在沖米軍幹部が、軟弱地盤に関する懸念と、普天間基地の継続使用の可能性に言及しました。防衛省交渉では、「米側から軟弱地盤の改良工事の実現性に関して了解を得ているのか?」と問いました。防衛省はこれまでは「軟弱地盤改良のための設計変更について説明している。」との回答でしたが、今回は「米側に説明しており、日米間に見解の相違はありません。」と踏み込んだ回答をしました。

私たちは、「米軍幹部が懸念を表明している。日米間に見解の相違はある。防衛省として米軍に、発言の根拠を確認する必要がある」と問いました。ジュゴンの生息環境に関して、土砂運搬船の水中音調査の範囲を、大浦湾や久志にも広げることを求めました。

環境省交渉は、大浦湾を海洋保護区の対象とするよう求めました。環境省は、「令和5年度から生物多様性の観点から重要度の高い海域(重要海域)などの既存の科学的な知見をふまえて、OECM 候補海域抽出・検討を開始する。」

と回答しました。OECM(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)を過大評価はできませんが、生物多様性の維持という国際的な流れを無視できないのです。米軍廃棄物撤去の取り組みを世界遺産センターやIUCN(国際自然保護連合)に報告する方法は今後検討。地域住民や観光客への注意喚起と対応を告知する看板設置は関係機関で協議することを確認しました。(関西 松島洋介)



防衛省交渉

喜瀬武原闘争 50 年

海勢頭豊

喜瀬武原コンサート



12月10日(日)沖縄県うるま市石川会館で、喜瀬武原闘争から50年を記念し「海勢頭豊 喜瀬武原コンサート」が開催されました。

1973年、米軍の104号線越え実弾射撃訓練に抗議する学生・労働者などが、着弾地に入り込み訓練を止めましたが、これに対して「刑特法」により、逮捕者が出て裁判闘争が取り組まれました。

記録映像上映では、50名の「決死隊」が着弾地の山に登り、山頂での泊まり込みや阻止行動の様子が映し出されました。当時の闘争関係者である糸数隆さん、仲村善幸さん、弁護士池宮城紀夫さん、104号線で米軍属によって殺害された女性の供養を続けている吉田勝廣さんによる4名のトークでは、22日間にも及ぶ勾留時の苦しかったことや支援者の励ましによって闘い抜いたことなど話されました。当時の闘争を振り返り、今も続く米軍人による事件事故など基地負担の強化に対して危機感を共有しました。

最後は、海勢頭豊さんのコンサートです。セットリストは、喜瀬武原、さとうきびの花、赤椀の世直し、コザキチロック、浜屋顔、帰れ太陽、はるかな南の海、山鳩、令美、トラジの花、喜瀬武原～沖縄の闘いと苦しみ・希望を歌い上げ、平和への想いをひとつにしました。ロビーでは、手作りのジュゴングッズ販売、ジュゴン保護署名、「喜瀬武原コンサート記念バナー」の作成など多くの参加者の皆さんにご協力いただきました。

(首都圏 三村昭彦)



喜瀬武原を合唱しました



1/12 官邸前終日行動

代執行による大浦湾埋め立て着工許さない！

国は不当にも、1月10日に代執行工事に着手し、辺野古・大浦湾側に土砂投入を開始しました。埋めるな連（辺野古の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会議）では、急遽、12日に抗議の一日行動を官邸前で実施しました。

朝8時からの行動には約50人が参加して、出勤する人達にチラシを配布しました。

午後12時には、宗教者が中心となって集会が開催され約250人が参加しました。「戦没者の遺骨が埋め立てに使われると、2度も殺される！」と、道義的にも許されない！と埋め立て強行を非難しました。

午後3時から、アダンの会中心で歌を歌っての抗議行動でした。平和を求める多くの歌をギター伴奏で歌いました。午後4時ごろ、SPや警察官に守られて、首相の車列が国会議事堂から官邸に入りましたが、参加者が大きな声で怒りの声を上げました。

夕方6時半には約200人が参加。「不当な代執行を今すぐやめろ」「辺野古新基地建設をやめろ」などと官邸に向けてコールし、今後も諦めることなく闘いつづける決意を示しました。（首都圏 宮城韶子）



官邸前に急遽集まった仲間



土砂投入5周年

代執行NO！海上大行動に参加しました

12月14日、辺野古ぶるーHYOGOの仲間と土砂投入5周年の海上大行動に参加しました。私は前回カヌーに乗ったのは昨年4月の着工5周年の海上行動なので、もう6か月以上経っています。辺野古ぶるーの「6か月ルール」で13日はカヌー教室に参加し、転覆復帰訓練までやりなおし。やりきって海上行動参加OKとなりました。

昨年4月は「着工」が行われたK8護岸に瀬嵩の浜から向かいました。今回は松田ぬ浜から土砂投入が行われたK9護岸までカヌーを漕いで向かいます。フロートに沿ってカヌーを筏のようにならべ、「代執行NO！」の横断幕を掲げます。

カヌーメンバーが抗議船のマイクをとってアピールします。私も「生物多様性は宝。生き物殺しはゆるさない」と発言しました。

年が明けると代執行にもとづく、作業ヤード建設のための大浦湾への土砂投入が始まっています。本土でもっと代執行中止の声をあげたいです。そして今度は6か月にまたず、現場に行きたいと思います。（関西 松島洋介）



カヌーを筏のように並べます



カヌー教室の後、午後のゲート前行動に参加しました

交流広場

今回ご紹介する鈴木さんは、2018年12月、辺野古の海への土砂投入後、いち早く、官邸前スタンディングに参加されています。官邸前のスタンディングの後には、文科省前での朝鮮学校に対する差別反対の抗議行動に参加、その後は、経産省前での反原発行動に参加するなど、理不尽なことに対して「一市民として出来るだけのことをする」を信条として、精力的に行動されています。

官邸前で理不尽な代執行に抗う

2015年7月、「富士国際旅行社」の“辺野古・高江激励訪問ツアー”で、初めて辺野古・高江に行った。平和ガイドの方から沖縄戦や戦後の暮らしや現状、沖縄の人々の思い(願い)を聞いた。知らない事ばかりだった。

その後、都内の集会で「とにかく辺野古や高江へ行って、



官邸前スタンディングに参加される鈴木さん

現実を見てきて！」の発言を聞いて、毎年のように、高江や辺野古へ行った。顔を覚えていてくれるのが嬉しかった。

辺野古テントでは、座り込みの合間にいろいろな情報が発信されて、困難な状況にもめげずに歌を歌うなど、抗議行動が工夫されていたが、その抗議行動を押さえるために、1日2千万円もの警備費が使われていることを聞いて愕然とした。国民のほとんどはつましい生活をして税金を納めているのに、ここでは税金が無駄に使われている。税金の使い方が間違っていると思った。また、祖父母のような高齢者を強制排除させられている若い機動隊員は、辛そうな表情を見せる者もいて、切なかった。それが、沖縄の事は出来るだけのことをしようと決意するきっかけにもなった。

官邸前のスタンディングは、もう5年目を迎えた。辺野古や高江で学んだことを心に、沖縄の現状が少しでも良くなるように、東京から応援したいと、参加している。日本政府が沖縄の民意を無視して、自然を破壊し、辺野古・大浦湾の海を埋め立てて新軍事基地建設をするための代執行は、本当に許せない！

官邸に向けて、みんなと声を合わせ、歌を歌いシュプレヒコールを繰り返して、新基地建設を断念させ、戦争の心配のない、平和で住みよい沖縄の実現に向けて、微力を注ぎたい！ (東京都在住 アダンの会 鈴木みつえ)



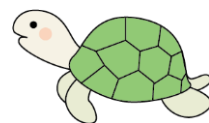
① わんさか通信 ★ ジュゴンの①

「キャンドル行動」諦めず20周年

辺野古キャンプシュワブのゲート前でペットボトルを再利用して手作りしたキャンドルスタンドに灯をともし、平和を訴えるスタンディング行動を続けている渡具知家と浦島悦子さん。辺野古沖でボーリング調査に着手した2004年からスタートしてなんと今年で20年となる、長い闘いである。

どんなに国に踏みこたわれても「諦めない」と続けている姿に力をもらい、まだまだ声をあげなきゃと何度も背中を押してもらいました(ありがとう)。

毎週土曜日の18時半~19時(どなたも参加できます)行き交う車に向かって「新基地建設止めましょう」「辺野古の海を守りましょう」「大浦湾を守りましょう」「ジュゴンを守りましょう」と手を振りながら声を揃えアピール(その笑顔にまたありがとう)。



私が初めて参加した時は小学生になったばかりの姉妹も今や21歳。平和を願い行動できる素敵なお人になりました。その成長の月日を実感し立派な姿にキュンとしています。

これから代執行で更に強硬に新基地建設を進めてくる国に「諦めない」声を姿を届けて行きましょう！

(沖縄 小平裕美)

報告

～ 沖縄旅 ～ 喜瀬武原を訪れて

沖縄では復帰後も恩納連山に向けての実弾演習が県道104号線を封鎖して行われていた。演習を止めるため決死の思いで山に入った阻止団を地元喜瀬武原の住民たちが支えたという。喜瀬武原コンサートの前日、金武町から県道104号線をたどり喜瀬武原に行ってみた。喜瀬武原のシンボルの三連水車とヒマワリ、コスモス畑に多くの人を訪れて、のどかな田園風景にほっこりしました。

翌日のコンサートで、ゲストスピーカーとして登壇した吉田勝廣さんは元金武町長（在職1994年-2002年）で、現在は金武町環境問題を考える会の共同代表をされている。大阪に戻ってから視聴したネットTVで吉田さんが“過去の恩納連山への実弾演習による火災の消火に使われた泡消火剤が現在のPFAS汚染の原点だ”とおっしゃったことに衝撃を受けた。普天間や嘉手納同様、金武町でもPFAS汚染が深刻だが基地内の立ち入り調査は出来ない。長年に渡り、環境を破壊し、命を脅かす基地をなくすためにできることを続けていきたい。（関西 山根富貴子）



喜瀬武原「花と水の里」でコンサートのバナーを手に



～ 沖縄旅 ～ 喜瀬武原コンサートから

軟弱地盤に伴う設計変更の承認を国が代執行するという現状。これでもかとかづくの暴挙に立ちすくんでしまいそうになる。

去年、12月10日の「喜瀬武原コンサート」に参加する



登壇された糸教氏、仲村氏、吉田氏、池宮城氏（左から）

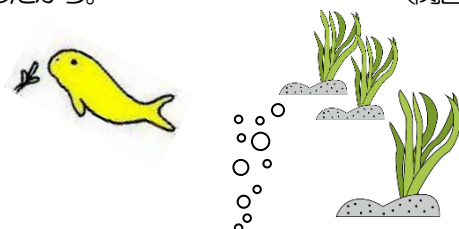
ため沖縄に行きました。体を張って闘った人たちがいたということを知っているだけだった喜瀬武原闘争。50年の節目にそこから今を考える内容でした。50年前は若かった当事者の方々の貴重なお話はずっしり重い。50年分。「ずっと闘い続けている。」「いかに闘ってきたかを若い世代に伝えていく努力をしていきたい」ユーモアを交えながらのお話にすごく刺激を受け、厳しい現状のなか大いに励まされ、背中を押して下さったと感じています。海勢頭バンド、豊さんの歌には熱がこもって心に沁みました。平和を願い、抗い続ける人々に私も連なりたい。

コンサートの翌日に、キャンプシュワブゲート前の座り込みに参加しました。大阪から来たということでマイクが回ってきたけれど、何が話せるだろう…喜瀬武原コンサートの感想と「大阪でがんばります」と約束しました。大阪に帰ってからの街頭行動で、なかなか伝わらないもどかしさの中「ジュゴンの棲む海を壊して軍事基地を造っていいのでしょうか」「このまま日本が戦争をする国になってもいいのでしょうか」と精一杯語りかけました。

立ちすくんでなんかいられません。「連なりたい」という思いで抗い続けます。辺野古の海はHopeSpot、希望の海なのだから。（関西 池側恵美子）



キャンプシュワブゲート前のテントにて





INFORMATION



<全国・首都圏>

- ・2/3(土) 11:00~新宿南口スタンディング
呼びかけ: 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック
- ・2/5(木) 18:30~19:00 防衛省抗議・申し入れ行動
呼びかけ: 辺野古への基地建設を許さない実行委員会
- ・2/25(日) 講演会「ポスト『代執行』・辺野古の闘い」
13:30 開場 14:00 開会 文京シビックセンター4 階ホール
講師: 吉川秀樹さん 呼びかけ: 沖縄戦首都圏の会
- ・3/2(土) 11:00~新宿南口スタンディング
呼びかけ: 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック
- ・2/18(日) 14:00~15:30 第7回オンラインセミナー
講師: 佐喜真道夫さん(佐喜真美術館館長) 詳細は下記
- ・3/23(土) SDCC 総会(オンライン) 詳細は追って SNS にて
14:00 ~ 15:30 参加希望の方は、近くのスタッフか、
info@sdcc.jp に申し込んでください。

《 今後のスケジュール 》

<関西>

- ・2/4(日) 13:30~ 討論集会「沖縄を戦場にさせないためにわたしたちができること」
国労会館 1 階会議室
主催: 沖縄を戦場(いくさば)にさせない実行委員会
- ・2/29(木) 14:00~ じゅごん茶話会 SDCC 関西事務所
- ・3/30(土) とめよう! 戦争への道・めざそう!
アジアの平和 2024 春 関西のつどい
13:30 開場~ エルシアター 清水愛沙さん 城村典史さん



第7回ジュゴンオンラインセミナー

佐喜真美術館より ~沖縄戦の図と普天間基地~

沖縄県宜野湾市にある佐喜真美術館には『原爆の図』でも知られる丸木位里・丸木俊夫妻が全身全霊を傾けて描き上げた作品『沖縄戦の図』が展示されています。佐喜真美術館館長の佐喜真道夫さんに、米軍基地に接収される前の普天間村のこと、佐喜真美術館設立の経緯、『沖縄戦の図』などについてお話しいたします。セミナーへのお申込みお待ちしております。

講師: 佐喜真道夫さん(佐喜真美術館館長)

日時: 2月18日(日) 午後2時~3時半

参加費: 500円(郵便振り込み)

配信方法: YouTube チャット機能で質問を受け付けます

お申し込み方法 info@sdcc.jp にメールでご連絡の上、2月16日(金)までに参加費500円を下記SDCC口座にお振込みください。入金確認後YouTubeの配信アドレスをお送りします。

(アーカイブ視聴ご希望の場合は2/16以降も受け付けいたします)*終了後一か月間アーカイブ配信します。



PHOTO 12/21 じゅごん茶話会の仲間の街頭行動

Editor's Note

岡真理さん著の「ガザとは何か」を読みました。イスラエルのガザ攻撃開始直後の早稲田大学(10/23) 京都大学(10/20)の緊急講義にもとづいたものです。ガザのジェノサイドは、今に始まったものではなく、16年間の完全封鎖により継続されてきました。電気の供給も制限され、下水処理場は機能せず、ガザの海は完全に汚染されてしまいました。食料も制限され「糖尿病」が地域病になっています。そこへ今回の攻撃。これを止めるのは人類社会の責任だと思います。(M)

会費(2000円)&カンパ振り込み先

郵便振替:

加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター

口座番号 00140-9-660199

他行、コンビニからは: ゆうちょ銀行 〇一九支店

口座番号 普通 0660199

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.132 2024年1月30日発行

ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)

(首都圏事務所) 〒162-0814 東京都新宿区新小川町6-38

大曲マンション201号 なかま共同事務所内

(関西事務所) 〒534-0025 大阪市都島区片町2-9-21 京橋ベース302号

連絡は以下のメールにて受け付けております。

○ URL <http://www.sdcc.jp/>

○ E-MAIL info@sdcc.jp

ちゃんぷるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします
お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに!



SDCCのwebsite
<http://www.sdcc.jp/>
には、左記QRコードより
アクセスできます